

皆様、おはようございます。

主のよみがえりの朝、主の勝利の朝、日曜日の朝を迎えております。

1週間の様々の出来事を振り返ります。そこにいつも主が「わが子よ」と寄り添い、共に歩き、語り掛け、祈り執り成し、罪を贖い、御言葉を語り掛けて心を明々と燃やして、途方に暮れる、立ち尽くす、不安な、欠乏の夜の暗闇に光を照らし、導いて下さいましたことに感謝いたします。いよいよ来週はペンテコステ(聖霊降臨日)です。鍵をかけて恐れに打ち震えていた弟子たちが、力を受けて主の証し人として力強く旅立ちゆくために神様が約束された聖霊を、約束の通りに神様が授けて下さったその日です。

そのペンテコステ前夜の出来事を思わせる、イエス様が弟子たちに付き添われた最後の瞬間の出来事、そのお語りになられたことを今日は味わってまいりましょう。

**3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。**

ルカ 24:25 そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

24:26 キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。

イエス様は苦難を受けるべきことを弟子たちに何度も語っておられました。

①マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、  
8:32 しかもあからさまに、この事を話された。

②マルコ 9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。  
9:32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

③マルコ 10:32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、  
10:33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。

10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

ローマ 8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか。

8:33 だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。

8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。

8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのために終日、／死に定められており、／ほふられる羊のように見られている」／と書いてあるとおりである。

8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

ローマ 5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

イエス様には、苦難を受けることが定まっていました。しかしその苦難は、苦難だけで終わるものではありませんでした。苦難を受けて死なれましたが、今は生きているということ、数々の確かな証拠をもって、イエス様は弟子たちに実に40日にわたって度々、度々、本当

に再々弟子たちに現わされました。

私たちは、イエス様のご復活からペンテコステ迄が50日であることを知っていますが、実にそのうちの40日に渡って、イエス様が弟子たちに度々お姿を現されたことを知るので、繰り返し繰り返し、嚙んで含めるように、舌の根の乾かぬ内に、またすぐに主の言葉を忘れ、不安に陥ろうとする弟子たちのために、主がそこまでも繰り返し40日にもわたって弟子たちにお現われにならなければならなかったところに、弟子たちの不安さ、至らなさ、心細さが表れています。

イエス様は「自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られ」ました。

イエス様は40日に渡って、繰り返し、繰り返し、ご自分が生きているということを弟子たちに語られました。

わたしは生きていると今日イエス様がおっしゃっても、姿が見えなくなれば、次の日には主はもうおられない、死んでしまわれたのだと弟子たちは悲しみました。そしてイエス様はまた次の日も表れ、ご自分が生きているということを弟子たちに語られました。このような繰り返しで、弟子たちが本当に「主は今生きておられる」と分かるまで、実に40日もかかったということです。もうあと10日もすれば聖霊が注がれるというそのぎりぎりのところまで、イエス様は弟子たちに伴ってくださいました。よちよち歩きで、いつも親の手をぎゅっと握ってでしか歩くことのできない幼子のような甘えん坊のために、主はずっと付き添ってくださいました。ちょっと姿が見えなくなるだけで、わあっと泣き出す幼子のようにです。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」ルカ 24:5-6

私たちの主は墓の中にはおられません。死んだ者のうちに探すことは出来ません。復活なされたのです。目には見えなくとも、「主は今生きておられる」のです。

3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。

数々の確かな証拠をもって、常に気落ちしようとする弟子たちに、新たに新たに、彼らが心の底から納得するまで、イエス様はご自分の生きておられることを示してくださいました。そして神の国に目を向けることを教えて下さいました。

私たちは現実の世界に生きています。苦勞があり、望みがかなうという奇跡なんて起こりようもないほどに、残酷なまでに現実的な、心打ちひしがれる、頭から冷や水を掛けられて、良き情熱の炎が吹き消されそうな熾烈な現実世界の中に生きています。そこには憎しみや争い、戦い、人殺しが横行しており、その罪の心をすべての人が持ち合わせています。

しかし神の国には平和があります。

イザヤ 11:1 エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、

11:2 その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。

11:3 彼は主を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、

11:4 正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの／柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。

11:5 正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。

11:6 おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、

11:7 雌牛と熊とは食食物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、

11:8 乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。

11:9 彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。

主の霊により、悟りが、力が与えられ、主を知る知識の霊によって主を知る知識が地に満ちる時、そこは神の国となります。そこに樂園が開かれます。

マタイ 6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要なことをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

現実的な苦勞の満ちあふれる世の中で、しかし私たちはどこに目を向けるべきなのか。私たちは、まず神の国と神の義、神様を取り、神様を頼みとすることを願い、(神様を知る知識によって満たされた)神の国がこの地上世界に実現しますようにと祈っていきたく願います。

4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう」。

6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。

7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

聖霊は、私たちに力を与えます。理解力を与えます。そして私たちを信仰に導き、そして神の国がこの世界に広がるように、イエス様の証し人として私たちが進むことが出来るようにと私たちを導きます。

この世界に本当に必要なものは、イエス・キリストです。

2 コリント 8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

ヨハネ 6:28 そこで、彼らはイエスに言った、「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。

6:29 イエスは彼らに答えて言われた、「神がつかわされた者を信じるのが、神のわざである」。

6:30 彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか」。

6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。

6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。

6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

マタイ 9:35 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

9:37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。

9:38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。

「イスラエルのために国を復興」ということ、神の国の福音は、もう一つの選民だけが神様の祝福を受けるところにはとどまらなくなりました。神様はその民を特別に愛し、その民の繁栄を願われるのですが、同時にこれはすでに古くアブラハムに言われたことですが、神様は選ばれた民を通して地上のすべての人々を祝福しようと計画しておられました。

創世記 12:1 時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離

れ、わたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、／あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、／あなたによって祝福される」。

(新共同訳)12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように。

12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。」

「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」とのこの言葉は、大変重要です。聖霊は私たちに励まし、力を与え、私たちがイエス様の証人とします。私たちが神の国のために成すことは、イエス様を証しすることなのです。イエス様を証しするときに私たちは祝福の源となり、イエス様を証しするときに羊が羊飼いを得、どの氏族であっても私たちによって祝福に入るのです。

1:9 こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

1:10 イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

弟子たちはポカンとして天を仰いでいました。そこに輝くような白い衣を着た天使がやって来ました。そして言いました。

1:11 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。

なぜ天を仰いで立っているのか。子供が心細そうに姿も見えなくなった、お父さんの、お兄さんの後姿を見ていつまでも佇んでいます。しかし今は神様の語られたことを胸に歩み始める時。いつまでもめそめそしている時ではありません。去って行かれたイエス様の姿を

いつまでも追っているな。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。再開の日がある。そして遠からず、約束の御霊が注がれる。ガリラヤの人たち。心もとない主の弟子たち。幼子たち。天を挙げての守り支えに目を留めよ。目に見えるところばかりではなく、現実世界に打ちのめされるのではなく、慈しみに満ちた神様の国を見て、一心に見て、御言葉を行い、今週も力を注がれてイエス様を証ししたいと願います。

ヤコブ 1:21 だから、すべての汚れや、はなはだしい悪を捨て去って、心に植えつけられている御言を、すなおに受け入れなさい。御言には、あなたがたのたましいを救う力がある。

1:22 そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってしまういけない。

1:23 おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。

1:24 彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。

1:25 これに反して、完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。

#### ◇今日の説教から

主のご復活から6週間。混乱の朝から始まり、不安がる弟子たちにイエス様はずっと付き添ってくださいました。ペンテコステ迄の50日の間、実に40日にわたってイエス様は度々弟子たちに現れ、神の国の事を語られました。

イエス様は、「自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示」されました。弟子たちにとって知るべき最も大切なことは、「主は今生きておられる」という事実を心深く信じることでした。

「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、…あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」

「イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

イエス様はかつて弟子たちにこう語られました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6:33)

イスラエルのため国を復興する、しかしそれに勝って神様は聖霊により弟子たちに力を与え、いよいよこの地上に神の国を建て上げようと願っておられます。弟子たちが見ている前で天に行かれるイエス様。ポカンと見上げる彼らに御使いは「またおいでになる」と語



りました。御国のため心励んで進みましょう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主イエス様は弟子たちを「子よ」と呼び、いつも彼らと伴い、度々現れ、数々の確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを示し、慰め、励まし、神の国のために弟子たちを整えて下さいましたことをありがとうございます。聖霊によって強められ、イエス様の証人として生きる幸いを噛み締めます。自分の国のためだけでなく、自分の事だけでなく、神の国のために生きる時に必要なものはすべて与えられるとのお約束をありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン